

## 隠岐諸島

# 「日本海に浮かぶ宝島」 隠岐諸島

西郷税務署 総務課長  
中原 弘樹

## ●はじめに

西郷税務署は、島根県の北東約44kmから80kmに位置する隠岐諸島（4つの主島と180余りの小島からなる）内にある「島後」<sup>とうご</sup> 隠岐の島町、「島前」<sup>とうぜん</sup> 西ノ島町、海士町及び知夫村の3町1村を管轄しています。

隠岐島から北西約158kmの日本海に浮かぶ竹島は、隠岐の島町に属しています。

古代には隠岐国と呼ばれ、724年に「配流の地」と定められて以降、鎌倉時代には「承久の乱」で後鳥羽上皇が、「元弘の変」で後醍醐天皇がご遷幸された地です。

現在、隠岐諸島と本土を結ぶ交通機関は海路と空路があり、海路は大型フェリーや高速船が本土の境港・七類港と隠岐諸島の各港とを、空路は出雲空港・伊丹空港と隠岐空港を結んでいます。

管内の経済は、漁業（イワシ、アジ、サバ等の多獲性回遊魚を対象とした巻き網漁や蟹やバイ貝等を獲る籠漁、イカ釣り及び定置網漁）、畜産業（放牧を主体とした肉用牛の繁殖）を中心とする第一次産業、観光関連業及び土木建設関連業が主要産業として島の経済を支えています。

特に観光においては、美しい景観、謎多き生態系の存在、日本形成が垣間見える大地とその歴史等から、世界的に見ても貴重な島として平成25年に「世界ジオパーク」に認定されたことで、多くの観光客が来島しています。

このような「日本海に浮かぶ宝島」隠岐諸島をご紹介します。

## ◆島後（隠岐の島町）

隠岐諸島最大の島で、周囲約200kmですが、幹線道路だと100kmで車なら2時間で1周でき、壮大な景観スポットや伝統文化、様々な史跡を有する隠岐諸島の経済・文化・交通等の中心地になります。では数ある景観スポットや伝統文化をご紹介します。

### 【ローソク島】

島後の北西の沖合に海から約20mの高さでそびえ立つ奇岩で、島の先端に夕日が重なるその瞬間、まるで一本のローソクに火を灯したように輝きます。船上からしか観ることのできないロマンチックで感動を生むその姿は、季節とともにその色を変え、波音とともに観る人の心に溶け込んでいきます。



### 【白島海岸】

島後随一の大パノラマが広がり国の名勝及び天然記念物に指定されています。長い年月の風化や海食作用によって特異な風景美を作り出しています。



### 【岩倉の乳房杉<sup>あちまぎ</sup>】

島後三大杉の一つであり、隠岐最高峰・大満寺山の麓にひっそり立つ奇杉で幹囲11m、主幹は15本に分かれており大小24個の乳房状の根が垂れ下がっている樹齢約800年、樹高約30mの巨木です。まさに森



の精霊が宿っていきそうな神秘的な雰囲気醸し出しています。

### 【牛突き】

約800年前、隠岐へご配流となった後鳥羽上皇をお慰めするために島の人々が始めたのが起源とされ、全国的にみてもわずかに残るのみとなった闘牛の伝統行事であり、年3回の本場所が開催されています。



本場所大会はまさに真剣勝負で、決着は一方の牛が逃げ出すまで続きます。横綱同士の突合いは迫力満点で、角と角がぶつかり合う音や息遣い、牛の綱を持ちさばく綱取の気合のこもった掛け声が響く迫力満点の取組が見られます。



### 【隠岐古典相撲】

隠岐古典相撲の起源は、江戸時代まで遡り「神事」として行われてきたことから、勝負は同じ力士が2度連続して取り組み、先に勝った方が、2度目の勝ちを相手に譲り1勝1敗で終わります。

狭い島内にいざごぎを残さないための配慮といわれ、これを「人情相撲」と呼んでいます。現在では神社遷宮や大きなプロジェクトの完工など、慶祝事業に伴って行われます。



## ◆島前（西ノ島町・海士町・知夫村）

島前は、隠岐諸島のうち西側にある西ノ島（西ノ島町）、中ノ島（海士町）、知夫里島（知夫村）の有人3島及び周辺の無人島により構成される群島であり、島後同様、主要産業は漁業、畜産、観光関連業になります。

島前3島は約500万年前の海底火山の噴火により隆起した後、カルデラが形成されたもので、海に浮かぶカルデラの絶景が楽しめます。

## ◇西ノ島（西ノ島町）

ダイナミックな自然景観が印象的な島で、かつて火山島だったことから、高低の起伏が激しく、海岸には自然のアートとも言える奇岩や怪礁が連なります。後醍醐天皇が配流された島でもあります。

## 【国賀海岸（摩天崖）】

約13kmにわたり、大規模な海蝕作用によって出来た崖で巨大なナイフで垂直に切り取ったような海拔257mの大絶壁です。周辺一帯での放牧地では、牛馬がのんびり草を食す姿が見られます。



## 【黒木御所址】

別府港の東、湾に突き出た丘の上にあり、元弘2年、後醍醐天皇が配流になられ、約1年間住まわれたといわれる伝承の地で、島を代表する史跡となっています。



## ◇中ノ島（海士町）

対馬暖流の影響を受けた豊かな海と、名水百選（天川の水）に選ばれた豊富な湧き水にも恵まれており、自給自足のできる半農半漁の島です。

鎌倉時代の承久の乱で敗れた後鳥羽上皇が配流され、在島19年後崩御された地です。

# 隠岐諸島

## 【隠岐神社】

後鳥羽上皇を祭神として、昭和14年に上皇没後700年を記念して御火葬塚の隣接地に造営されました。社殿は隠岐地方独特の「隠岐造り」と呼ばれる建築様式で造られています。

昨年は創建80周年大祭が営まれましたが、来年は後鳥羽上皇配流800年を迎え、海士町で様々な顕彰事業が開催されます。



## 【明屋海岸】

赤崖とエメラルドグリーンの海とのコントラストが美しく映えます。

ハート型に穴が開いた屏風岩は「ハート岩」と呼ばれ、近年幸運や縁結びのパワースポットとして人気です。



## 【凍結技術 Cells Alive Systemの導入】

CAS（セルライブシステム）とは細胞を壊すことなく生きたままのような状態で凍結保存できるシステムのことです。解凍時の食味の低下を大幅に低減する冷凍技術です。

これにより、海士で水揚げされた白イカや岩ガキなどの魚介類を鮮度そのままに都会等の消費者にも届けています。

## ◇知夫里島（知夫村）

隠岐主要4島の中で最も小さく、のどかな地域です。カルデラを一望する絶景や、かつての火山の断面、隠岐独特の農法牧畑の名残が見られます。標高325mの赤ハゲ山からは、島根半島、島前及び島後の大パノラマを味わうことができます。

## 【赤壁】

国の天然記念物に指定されており、約1kmにわたって荒々しく削り取られた断崖です。

ざっくりとえぐられた赤褐色の岩肌が紺碧の海に映えるドラマチックな景観が楽しめます。



## ●おわりに

隠岐諸島特産の「隠岐牛」「隠岐そば」をご紹介します。

隠岐牛は、隠岐島で生まれ、日本海の潮風を受けたミネラルたっぷりの牧草を食べて隠岐の自然環境の中で育った未經産の雌牛で、4等級以上の格付けを受けた幻の黒毛和牛です。

隠岐そばは、隠岐の郷土料理のひとつで、つなぎを使わない十割そばで風味が強いのが特徴です。さば節等でとった出汁は絶品です。是非一度ご賞味いただければと思います。

また、隠岐諸島は本土と送電線が繋がっていないことから、日本初のハイブリッド蓄電池システム実証実験が行われ、電力の安定供給のため再生可能エネルギーの更なる拡大に向け取り組んでいます。

以上、今回ご紹介できませんでした。が、「隠岐国分寺蓮華会舞」などの伝統行事や毎年6月に開催される隠岐の島ウルトラマラソン（100km・50kmの部）をはじめとする各種イベントも多数開催されていますので、是非一度隠岐諸島へお越しください。

〔写真提供〕  
大山隠岐国立公園隠岐管理官事務所  
隠岐の島町商工観光課

## 岡山県

## 自然・歴史・文化に触れ、お酒を嗜む

瀬戸税務署 総務課長  
小林 亘

## ●はじめに

瀬戸税務署は岡山県の南東部に位置しており、明治29年11月に本荘税務署として和気郡本荘村（現在の和気町）に開庁しましたが、明治33年4月に本荘税務署の管内と金川税務署の管内の一部（旧赤坂郡）を統合、新たに瀬戸税務署が開庁し、現在の署長は70代目となります。

管内は岡山県では「東備」地域と言われ、管轄区域は、備前市、赤磐市、和気郡和気町及び岡山市東区瀬戸町の3市1町から構成され、東端は大阪国税局相生税務署管内と隣接しています。

瀬戸税務署の特色の一つとして、管内には多くの酒類製造場があり、当署の税収の6割超を酒税が占めていることが挙げられます。



が良く、<sup>まんとみ</sup>万富地区には、麒麟ビールの西日本最大の製造工場である「麒麟ビール岡山工場」があり、観音寺地区にはIPU・環太平洋大学の本校があるほか、当署管内で唯一人口が増加傾向にあります。



## ◆海と緑と炎の町「備前市」

備前市の南部には兵庫県赤穂市に隣接している伊里・日生・寒河地区があり水産業が盛んですが、特に牡蠣養殖が盛んで、その牡蠣をふんだんに使ったお好み焼き「カキオコ」は観光客に大変人気です。



また、備前市の中部には、現存する世界最古とされる庶民のための公立学校で国宝にも指定された「旧閑谷学校（講堂）」があり、長州藩の明倫館、水戸藩の弘道館と並び、日本三大学府の一つと称されています。

◆人口増加傾向にある町  
「岡山市東区瀬戸町」

税務署のある岡山市東区瀬戸町は、旧赤磐郡瀬戸町で平成19年1月に岡山市と合併しました。

JR山陽本線や山陽自動車道が通り、交通の利便性



備前市の南西部にある伊部・香登・片上地区は日本六古窯の一つである備前焼と耐火レンガの産地です。

備前焼は、古墳時代の須恵器から続く無釉焼き締めの伝統を守る日本を代表する焼き物として全国に数多くのファンを有し、1956年に人間国宝に認定された金重陶陽のほか藤原啓、山本陶秀、藤原雄（以上、いずれも故人）、伊勢崎淳と5人の人間国宝を輩出しています。

また、毎年10月の第3土・日曜日に「備前焼まつり」が開催され、毎年延べ10万人を超える観光客で賑わうほか、昨年11月末には備前焼をテーマにした映画「ハルカの陶」（主演女優は奈緒）が全国公開されました。



## ◆酒米・果実とベッドタウン「赤磐市」

赤磐市は、旧赤磐郡の町村（瀬戸町を除く）が合併して平成17年3月に市制を引いた比較的新しい市ですが、岡山市に隣接することから、大規模団地「岡山

ネオポリス」があるなど、岡山市のベッドタウンとなっています。

また、産業としては農業が盛んであり、特に瀬戸町を含め温暖な気候を利用した「雄町」などの酒米の生産や「清水白桃」「瀬戸ジャイアンツ」（マスカットの一種）等の果実栽培が盛んです。



このほか赤磐市には、西日本最大規模のワイナリーであるサッポロビール岡山ワイナリーや第三セクターの「是里ワイナリー」があるほか、5つの日本酒の蔵があり、酒造りが盛んな地域となっています。



## ◆自然に恵まれた「和気町」

和気町は和気郡唯一の町であり、町の中心を南北に県三大河川の吉井川が貫流し、古くから吉井川の清流を利用した産業が盛んで、企業の誘致にも力を入れており、1日当たり約250万本をボトルリングする岡山和気ヤクルト工場があります。



また、古くは東備地域の中心として和気氏の治領であり、その12代目で道鏡事件と平安京建設で知られる和気清麻呂公とその姉の和気広虫姫も祀られている和気神社があります。この和気神社は狛犬の代わりに狛亥（イノシシ）が建てられ、これは猪が道鏡の刺客から清麻呂公を守護したとされる逸話に由来しており、今も人々の憩いと厚い信仰の場所となっています。



## ●おわりに

今回ご紹介したほかにも、備前市は日生諸島の美しい景観や五味の市、赤磐市にはドイツの森、和気町の和気鶴飼谷温泉など、海・山・川・歴史・文化・お酒を楽しめますので、是非一度、東備地域へ足を運んでください。



呉市

## 産業技術の先端を走る ものづくりのまち“呉”

呉税務署 総務課長  
青木 潔

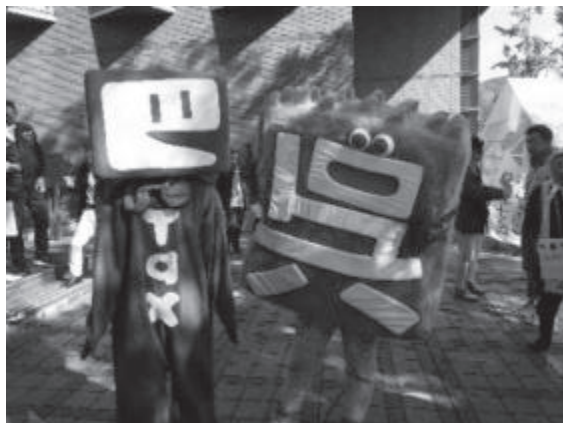
### ●はじめに

呉税務署は、広島県西南部、瀬戸内のほぼ中央に位置しています。

署の沿革は古く、明治23年広島県直税署間税署呉分署が開設され、明治29年に呉税務署として設置されました。幾度かの市町村合併を経て、平成17年より現行の呉市を管轄しています。

呉鎮守府ちんじゆふが開庁した明治22年に約2万人だった呉市域の人口は、昭和18年には約40万人に増加しました。近代国家として西欧列強と渡り合うための海防力を備えるため鎮守府を設置して以降、人と先端技術が集まり、近代的な水道施設、鉄道の敷設、市街地の形成、海軍工廠こうしょう（艦艇の建造及び修繕）、海軍病院等多くの施設が運営され、日本の近代化を象徴するまちへと変貌しました。

現在、呉市海事歴史科学館「大和ミュージアム」や、海上自衛隊呉史料館「てつのくじら館」をはじめ、戦時中の呉を舞台にした映画「この世界の片隅に」、「男たちの大和」、「アルキメデスの大戦」や、



呉市公式キャラクター「呉氏」君とイー太君  
♪♪ 呉に来てクレ！！  
♪♪ スマホで申告してクレ！！

「海猿」等のロケ地のほか、北前船の寄港地で栄えた御手洗みたらいなどに、多くの観光客が訪れています。

戦後復興の礎となり、現在も「ものづくりのまち呉」を支えている海軍ゆかりの民間技術や、島々をつなぎ人々の交流や経済活動を支えている橋の整備を含め、呉の歴史などについて紹介させていただきます。

### ◆おんど音戸の瀬戸

都からいつく厳島、大宰府への主要海上ルートとして重要であった音戸の瀬戸は、本土と倉橋島くらはしとの間にある海峡で、船の交通量が多く、幅は狭いところで80mと海の難所として奈良時代から知られていました。

また、厳島神社参詣航路を整備するため、平清盛は金の扇を開いて西に沈む太陽を招き返し、音戸の瀬戸開削の難事業をその日のうちに完成させたと言われています。



平清盛公日招像

## ◆海上自衛隊呉地方總監部

鎮守府開庁当時の庁舎は、現在、海上自衛隊呉地方總監部第一庁舎として使われています。外壁のレンガはイギリス積み、中央部玄関から屋根までは御影石<sup>みかげいし</sup>が使用されるなど、レンガと御影石の調和がとれた美しいデザインが特徴です。美しさと重厚さを備えた建物は、日本遺産構成文化財のシンボリック的存在として威風堂々たる姿を見せています。



海上自衛隊呉地方總監部 第一庁舎

## ◆潜水艦の開発拠点

日本一の艦船建造技術を有した呉海軍工廠の特徴の一つに、数多くの潜水艦の建造を手掛けたことがあります。昭和4年には、呉海軍工廠に独立した潜水艦部が設置され、潜水艦の重要な開発拠点となり、様々な艦を建造してきました。

「アレイからすこじま」からは、海上自衛隊の潜水艦を間近に見ることができ、国内で唯一の景色を楽しむことができる公園として人気を集めています。



潜水艦が停泊するアレイからすこじま

## ◆現代に生きる「大和」の建造技術

「大和」は、国力面におけるアメリカの量的優位に対し、日本が質で対抗するために建造された艦で、当時の最新技術の結晶と言えるものでした。

球状船首（バルバスバウ）は、船首の水面下に球状の突起を付けることで、8%以上の造波抵抗を減らし、速度が上がったほか、有効馬力の節約と航続距離の増大につながり、戦後の大型タンカーから漁船に至るまで、幅広く利用されています。日本で初めて造られた超大型スクリューは、鋳物技術の基盤となっています。

また、製鋼技術、弱電（家電）技術、精密光学機器産業ほか、戦後日本の復興と高度経済成長を支えるとともに現代へと受け継がれている様々な技術などは、大和ミュージアムで紹介されています。



全長26.7m（10分の1戦艦「大和」）

## ◆酒づくり

全国有数の酒どころである広島県において、呉でも多くの酒蔵が興り、酒造りの中心として発展してきました。

大正9年、軍艦「浅間」が呉の酒を積んで200日以上航海で赤道を2回通過しても劣化しなかったとして、旧海軍が発行した証明書を保存している蔵元や、近年では、航空機の国際線ファーストクラスで提供される日本酒の蔵元など、呉の酒は、国内外で高い評価を受けています。



## ◆海軍ゆかりの食文化

明治期、海軍では長い航海によるビタミン不足が原因とされる脚<sup>か</sup>け<sup>け</sup>が蔓延し、兵員の健康維持が大きな問題となっていました。

そこで、食べ物と病気の関係に着目した海軍は、必要な栄養摂取量やバランスの良い献立を研究するなど、兵食改善に取り組みました。

その一つが、ビーフシチューを参考に考案された「肉じゃが」です。肉や野菜が一度にたくさん食べられ調理も簡単と、兵食には最適なものでした。

また、イギリスのカレースープをアレンジして、日本人の味覚に合うようにとろみを付けた「カレーライス」も、兵食のために海軍が開発しました。

これら、明治期に誕生し、呉のまちで育まれた食文化は、今もしっかりと根付き、人々の食卓を支えています。



くれ肉じゃがの会（食の祭典）



潜水艦「そうりゅう」テッパンカレー

## ◆とびしま海道4橋と御手洗

本土と安芸灘に浮かぶ下蒲刈島、上蒲刈島、豊島、大崎下島をつなぐ4橋が、平成20年に開通し、農水産物の出荷などをはじめ住民の生活を便利にし、瀬戸

内の多島美を満喫できるスポットとしても注目されています。



安芸灘大橋（手前）と蒲刈大橋（左奥）

管内の最東端に位置する大崎下島の御手洗は、17世紀中頃に「風待ち・潮待ち」の港町として形成されて以来、参勤交代の大名や幕府役人、外国の使節が乗った船や商船など多くの船が立ち寄り、瀬戸内海交通の中継港として栄えてきました。「動く総合商社」ともいわれ、巨万の富を運んだ北前船の寄港地ともなり、日本遺産「荒波を超えた男たちの夢が紡がれた異空間～北前船寄港地・船主集落～」に登録されています。



御手洗のまち並み

## ◆はいがみね 灰ヶ峰

市街地をすり鉢状に取り囲む美しい山々の中でも北方に位置し、雄々しくそびえ立つ灰ヶ峰は標高737mを誇っています。その夜景は、中国四国三大夜景に選ばれており、まるで天上から眺めているかのような美しい夜景を鑑賞できます。



灰ヶ峰山頂から眺める市街地夜景

## ◆関係団体との連携

当署管内15団体で構成される「呉税務関係団体連絡協議会」主催により、消費税率引上前の昨年9月7日、大和ミュージアム前広場において、電子納税による期限内納税を推進する宣言式が開催されました。当日は、同協議会を代表して呉法人会会長が、「住みよい地域社会の実現に向け、期限内完納及び電子納税推進運動を展開する。」と宣言され、申告と納税手続きの電子化及び税務コンプライアンス向上に大きく寄与されました。



消費税・電子納税フェスタ2019

また、管内の金融機関が加盟している呉納税貯蓄組合連合会金融部会では、電子納税普及に協力いただいているほか、当署の確定申告会場に設置している「振替納税コーナー」に輪番で銀行職員を派遣して、来署された納税者に対する振替納税制度の利用勧奨も実施するなど、民間と行政の良好な連携体制が構築されています。

## ●おわりに

呉市では、世代交代や創業によって、若くて元気な経営者が増えてきており、多くの観光客が訪れることも期待されています。

一方で、平成30年7月の西日本豪雨災害により、管内は大きな被害を受けました。復興には、まだ多くの時間がかかるといわれており、引き続き広島県及び呉市と連携協調を図り、災害に係る税の軽減制度手続の周知・広報・相談等に取り組んでまいります。

被災者の皆様に心よりお見舞いを申し上げますとともに、一日も早い復興を祈念しております。

〔写真提供〕

呉市、呉税務関係団体連絡協議会ほか